

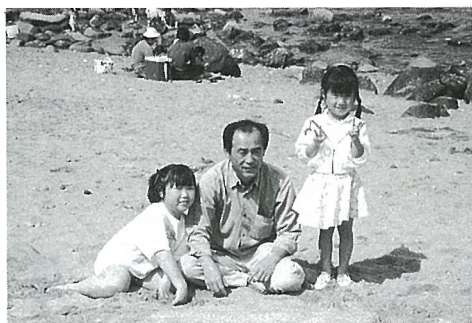
はぐくむ光のびる若芽

110

母子 斉藤悦一

わが家は、私の両親と弟、そして3人の娘たちと私たち夫婦の8人家族です。高2の長女、小5の二女、小1の三女の子供たちは、「ただいま」と帰ってきて、「おかえりなさい」という言葉が返つてこなかった日はなかつたと思います。そして、その様な挨拶の無い寂しさも経験した事がないと思います。そして、私たちもその様な生活に安心して、共に会社勤めをしている毎日です。その様な家庭環境に甘えて特別な躰とか教育とか考へてはいません。子供たちそれぞれ行動やその姿が私たちの教えの結果だと反省しています。時折り両親からは、過度の放任ではないかと叱りを受ける事もあり、母親である妻も、子供たちに対して不安やイライラを感じる事がある様です。

子供たちの幸せを願って



▶ 銚子で2人の娘と

一人っ子が3人、それぞれ個性でぶつかり合つている毎日それでも時には、やっぱり姉妹なんだなと思う時もあり、それでいいかなと思つています。常に子供たちの考え方を理解する様に、務めたいと思つてい

集が学校にきているとの事です。その時の私たちにとつては、大きな決断を求められるものでした。多くの方の意見や話を聞き、協力も得ました。一ヶ月間の不安をいだきながら見送りました。その結果、いままでもう少し子供自身が何かに自信を持つた様に感じられました。

今、3人の子供たちが、それぞれの学年で色々悩み考へる時、自分たちの力で乗り越えて行ける様な、そんな強い子供になつてほしいと思つています。そして私達も一緒になつて同じ様に考へたり悩んだりして、成長しなければと思つています。私たちは子供に財産は残してやれないと思ひます。その代りに、子供たちが少しでもいい人生を過せる様に頑張つていきます。

介護のポイント

② 食事

飲み込みやすい工夫を

脳卒中などでは食べ物や飲み物がうまく飲み込めず誤つて気道に入り肺炎を起こすことがあります。それを防ぐためには、食事をするときは少し前かがみの姿勢をとらせます。ベッドの上で食事をとる場合は、ベッドから足を下ろして腰かけさせたり、あるいは椅子にすわらせて体全体を少し前かがみにさせます。(絵)

食べ物が入ると強くむせますが、むせたときには無理に食事を進めないことです。水やお茶はむせやすく、ヨーグルトや牛乳は上手に飲めることが多いです。また、ご飯はうまく飲み込めないものですが、とろみをつけたり、おじやにすると飲み込みやすくなります。

自分で食べる練習を

食事は人それぞれ好みも

あり、できるだけ自分で食べさせることです。それが機能訓練にもなるのです。もしこぼして衣服やシーツを汚すことが多い場合は、布で裏打ちしたビニールの前かけなどを作ると便利です。

食事の介助が必要なときは、少量ずつ、ゆっくりと飲み込んだことを確認しながら口の中に入れてあげます。脳卒中などでは、片側の手足の麻痺だけでなく、片側の口の動きも悪くなつていて、食べ物が一方向にたまるのがよくあります。そのような場合は、動きのよい側に食べ物を入れるようにすることです。

心がけたいこと

食事の前には手や顔をふいてあげ、食事の後にはうがいをして口のなかを清潔にし、入れ歯もとって洗つておきましょう。また、食事は一人でなく、できるだけ家族といっしょに、だんらんのなかでとるようにしましょう。

● 食事は少し前かがみの姿勢で

